



中庭から見る新7号館

2019 AUTUMN



今回の見学会で紹介された Acoustic Grove System(以下 AGS)は、円柱の木材をランダムに配置させた新しいルームチューニング機構で、吸音ではなく入射音を碎ぎ分散させることで入射音と反射音を干渉しにくくさせる特徴を持っています。これにより低音の抜けや中高音域がクリアになり曲の表情が豊かになります。実際に、AGSありとAGSなし(AGSをカーテンで覆う仕様)と比較すると、ジャズではAGSなしの場合スネアの音が散ってしまい締まりのない音になっていましたが、AGSありではスネアを叩く一音一音が粒となり締まりのある音になっていました。しかし、クラシックを試聴すると、コントラバスの音が響きすぎて低音がうるさく感じてしまいました。AGSなしではスピーカーの持つ出力音の滑らかさや低中高音域のバランスなどの特性を聴くことができたため、AGSは機器性能ではなく曲や音楽自体の聴感を補正することに特化していると思いました。持ち込んだ音楽を試聴する際、私はゲームのBGMと吹奏楽の曲を持ち込み試聴しました。ゲームのBGMは電子音になると高音がどう聴こえるようになるの

かが気になりましたが、AGS導入により普段聴いている時より高音による耳障りさはなくなり、抑揚の雑味が緩和されました。吹奏楽の曲を試聴した際は音の広がりや十分に感じられ、ホールに近い空間で聴いているように感じました。AGSはサイズや設置場所によってさまざまな形状パターンがあり、配置場所や個数によって音場が変わるため好みの音場にカスタマイズでき、既存空間の音場補正に使うことができることに魅力を感じました。また、児童の奇声や物を落とした時の落下音も抑制することができるのとこと、他の施設と併設することで騒音問題に悩まされる保育施設に導入すると諸問題の解消に繋がるのではと思いました。

私は、今回の見学会を通して縦の繋がりが大変重要であると感じました。このような経験は、普段得ることのできない様々な情報・知識を得ることができるため、大変貴重な経験であると考えています。また、OBOGの方なので共通の話題も多く皆様親切で終始楽しく、大変有意義な時間を過ごすことができました。学生の方にはこのような機会をOBOGなどを通じ、色々な情報を得て刺激を受けていただきたいと思っております。

このような貴重な機会を設けてくださったNAAならびに日本音響エンジニアリングの皆様には、心より感謝を申し上げます。



見学風景



音響体験風景



AGS (Acoustic Grove System)



見学者集合写真

2018年度第21回NAA賞紹介



受賞者：辻川 樹
学部4年生
(2019年3月卒業、岩岡研究室)

ベントの過去2年間の代表者として、様々な任務をこなし責任ある行動を取った。また、2018年度の理工学部創設50周年の関連イベントである「利根運河・夢の架橋」の設計コンペに参加し、地域住民と協力して優秀な作品を提案した。以上の活動および業績をたたえ、2018年度のNAA賞を授与する。



今回のNAA賞副賞
イサム・ノグチのAKARI

受賞理由：

辻川樹君は、本学学生有志が中心となり企画・運営する「利根運河シアターナイト」の2016年度および2017年度の実行委員長を務めた。「シアターナイト」は、東京理科大学と利根運河周辺の地域住民が協働して実施する貴重なイベントで、毎年多くの人々が参加し賑わいを見せている。辻川樹君はそのイ

井口道雄先生の叙勲を祝う会

粟飯原 功一（1985年卒 井口研）

令和元年春の叙勲において、井口道雄先生が教育研究功労における「瑞宝小綬章」を受章されました。研究室OB有志が発起人となり、7月21日に東京ガーデンパレスホテルにて、お祝いの会を開催しました。

井口研は、1971年野田キャンパス開設（即ち理工学部建築学科開設）時より37年間、構造系（主に耐震）研究室として多くのOB/OGを輩出してきました。2008年に退官後、現在、永野先生が研究室を引き継いでいます。

お祝いの会には、第1期生をはじめとする研究室OB陣、永野研究室、井口先生と木造耐震の共同開発に携わっている関係者等が会し、先生の叙勲を祝いました。

先生のご挨拶では、叙勲に思いあたる節がないと謙遜されつつ、各位へのお礼を述べられています。古くからの（世界を股にかけた）研究仲間、研究室OB/OG、共同開発してきた関係者、そしてなによりも当日同伴いただいた奥様への感謝を強調されていた？との印象が強くなります。

現在「なるの会」というかたちで、井口研究室・永野研究室合同の研究室OB会が毎年開催され、今年は、10月5日（土）に野田新7号館で行われます。井口先生に続く叙勲受賞者が「なるの会」から、再び出ることを期待します。



井口先生ご夫妻と永野先生



勲章と叙勲アルバム



集合写真

40年の足跡



ほんまし
本間 志のぶ

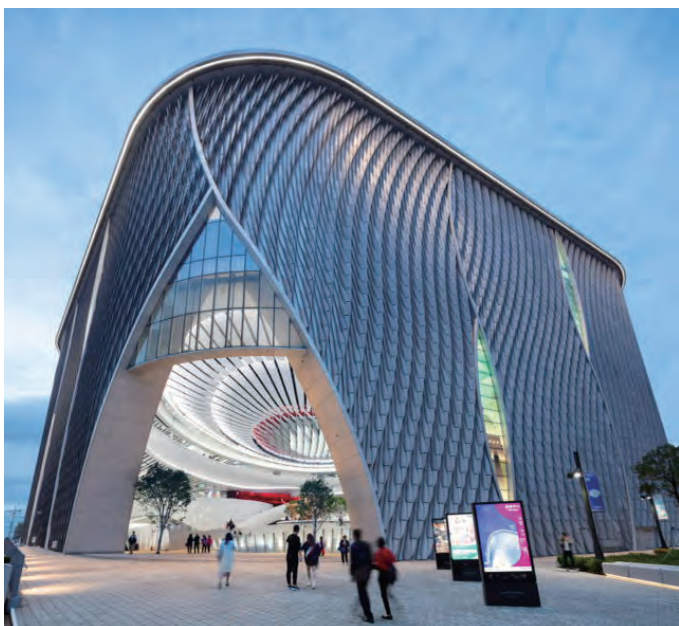
1952年 新潟県生まれ
1978年 東京理科大学 理工学部 建築科卒
(堀川研究室出身)
1978-1979年 東京の 団設計事務所 勤務
1980年 東南アジア、インド、ヨーロッパを
3か月間 旅行
1981年 カナダに移住
1982-1984年 Bing Thom Architects 勤務
1985-1992年 トロント 在住
Jim Strasman Architects 勤務
1992年 秋 バンクーバーに戻り
再び Bing Thom Architects 入所
2008年 Technical Director に 就任
2013年 Queen Elizabeth Diamond Jubilee
Medal 受賞
2017年 Revery Architecture と改名、
同時に Technical Principal に就任
現在に至る

主な作品

Chan Center for Performing Art at University of British Columbia 1997
Surrey Central City SFU 2004
Arena Stage Theater in Washington DC 2010
Tarrant County College Downtown Campus , Fortworth Texas 2011
Surrey City Central Library , Canada 2013
Xiqu Center , Hong Kong 2019
University of Chicago , Hong Kong campus 2018
The Butterfly, Downtown Vancouver Under construction

京都大の西山卯三氏の エッセイに感銘して、建築に興味を持ち理大に入ったのは1972年、高校の延長の様なカリキュラムに 失望、ジャズにのめり込み 2年を棒に振った。堀川研に2年出入りし、満田氏、伊郷氏と言った優秀な後輩と知り合い、刺激となる。卒業後、団設計とゆう小さな事務所に入り、そこで所長の 姪にあたるカナダから研修に来ていた、Lucy Komori と知り合う。彼女は、1979年の秋に日本を去るのだが、カナダに戻る前に 3ヶ月間 世界旅行をするとゆうので、私も同行する。この旅行が私の人生を変えてしまった。

カナダに着いて間もなく、彼女のお父さんが水死、私は移民を決意し、結婚する。移民権を取ったのが一年余りして、そして Lucy の 知人をとうして、Bing Thom 氏の事を知り、雇われたのが 1982年の暮れだった。彼は、Arthur Erickson 事務所を辞めて、1982年に 独立していた。Bing の事務所に入ったのはいいが、仕事に慣れるのに一年余りかかった。



Hong Kong の Xiqu



Washington DC の Arena Theater (Mead Center for Performing Art)

そんな中で、初めて住宅の増築の仕事 を 任された時は、夢の様で毎日が楽しくなり、その時 初めてマイラーの図面に 鉛筆で detail を描いた その感触は、今でも忘れない。

1984年に不況のおかげで 解雇され、私は 翌年 Toronto に移る。やはり Erickson 事務所の Toronto 分室を切盛りしていた Jim Strasman 氏の事務所 で 7年間勤務、Project Architect に必要な技術や leadership を身に着け 1992年の秋、娘が小学校に行き始める前に Vancouver に戻り 再び Bing 氏の事務所に入った。私は直ぐ 2件の小規模な仕事を任され、その完成後 私の実力が認められ、その後 幾つもの大規模な仕事を担当、2008年に director に就任 特に Façade の デザイン力が評価され、全てのプロジェクトに関わる事になる。

2016年10月に、Bing氏は香港で会議中に脳溢血で死去する。同年12月に、彼の遺書により Partner の Kokalov 氏と 後継者として 現在 40人の プレイク事務所を 経営、頑張っている。

紹介者：堀部加壽春（1976年卒 星野研）

人と環境のための建築づくり



かとう かつひこ
加藤 克彦

2000年 東京理科大学大学院修士課程修了
(初見研究室出身)
【執筆者略歴】
1974年 東京生まれ
2000～2002年 複数の設計事務所に勤める
2002～2009年 SUM 建築研究所
2010年 加藤克彦建築設計事務所を設立。
2012年 法人化に伴い、
株式会社テンジンスタジオ設立。
HP : <http://tenjinstudio.com>

卒業当初、あまり考えなしに組織設計事務所に就職しましたが、自分の気持ちを確かめつつ、足場を少しずつ改良していくように設計事務所を渡り歩き、ついには独立して10年目を迎えています。といっても、確固たる立ち位置を築いている訳ではなく、今も足場づくりは継続していますが、少しずつ仕事の幅は増えてきました。

最近のプロジェクトでは、神奈川県都筑区にある川和保育園の移転建替計画があります。

川和保育園は、「自分で考え 自分で遊べ 子どもたち」という保育理念の下、子どもが自主的に遊ぶことができる環境づくりで知られ、3歳以上の子どもたちは、登園してから家に帰るまで9割以上の時間を園庭で過ごしています。

遊びのプラットフォームである園舎は、園が移転してすぐに

新築とは思えない様相を呈し、泥んこになって毎日必死に遊ぶこどもたちの前では、建築はもはや姿を消しています。

建築はこれで(見えなくて)いいんだ、(主役は)使い手なんだ、と痛感させてもらったプロジェクトです。

この仕事を境に建築に対する考えが変わり、新たな僕の足場となりつつあります。

今後も、人の居場所をつくり場所とつなぐ、半分は人のため、半分は環境(場所、地球?)のための建築をつくっていきたいと考えています。

紹介者：梅澤豪太郎 (2001年修了 初見研)



川和保育園

けに来島してくれた、大学時代の同期である andfujiizaki 一級建築士事務所の藤井さん、井崎さんには佐渡の松ヶ崎集落の空き家を活用した古民家宿を経営していただき、佐渡の活性化に一役買ってくれていることは大きな成果の一つだと誇りに思っています。

3年間の政治活動を通して、市議として私なりに感じたことをギュッとまとめた結果、『前向きの島づくり』というコンセプトを生み出すに至りました。コップに半分水が入っているとき、「もう半分しかない」と嘆くよりも「まだ半分もあるじゃないか」と捉えよう！人口減少に端を発するあらゆる衰退をプラス思考で捉え、佐渡がトップランナーとなることで、この県、この国を引っ張って行こう！私は、残りの半生をかけて、焦らず、気負わず、皆さまとじっくりと共有していきたいと思います。

最後に、佐渡市と佐渡観光交流機構として、「2030年までに佐渡の関係人口を100万人増やそう！」という目標を掲げており、私もその実現に向けて汗をかかせていただいております。現役の理科大生、卒業生の皆さまには、是非とも佐渡に一度遊びに来てください。集落多様性をご堪能いただき、佐渡の方々と交流していただくことで、佐渡の関係人口となつていただきたいと切に思います◎

三度のメシより佐渡が好き!!!

佐渡市議会議員 室岡啓史

紹介者：藤井千晶・井崎恵 (2005年卒 初見研)

三度のメシより佐渡が好き!!!



むろおか ひろし
室岡 啓史

2005年 理工学部建築学科卒業
2007年 理工学研究科建築学専攻修士課程修了
(初見研究室出身)

【執筆者略歴】

2007年 ITベンチャー：株式会社うぶすな勤務

2011年 コールセンターベンチャー：

ヒューマン・キャピタル・コンサルティング株式会社勤務

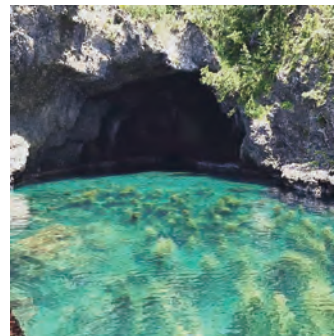
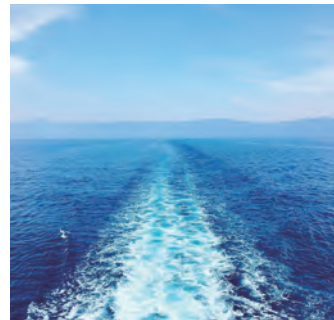
2016年4月 佐渡市議会議員選挙に初出馬
初当選、同上退職

【オフィシャルサイト URL】

<http://hiroshimurooka.com/>

「三度のメシより佐渡が好き!!!」少々照れるこのフレーズを思いついたのは大学院時代。新潟市で生まれ育った私が、両親の故郷である佐渡においてライフスタイル研究をする中で生み出されたフレーズです。佐渡で生き生きと暮らす皆さまへのヒアリング調査等で得た知見を、『“佐渡らしさ”の発見とその伝え方』という修士論文にしました。「集落多様性」という“佐渡らしさ”を地域資源として発掘し、集落内の空き家を活用して人が集うコミュニティスペースをつくるべきであるという提案です。その魅力を人を介して島内外へと伝えることによって、集落コミュニティや集落景観の維持が行われ得ると考えました。今後、日本の縮図と形容される佐渡を地域活性化のモデルとして位置付けることによって、“日本らしさ”を尊重する国づくりへの啓発の可能性を見出しました。この研究をきっかけに、佐渡市政への参画に興味を湧いてきました。

2016年4月に執行された佐渡市議会議員選挙に立候補し、ありがたいことに初当選させていただきました。当選をきっかけ



佐渡の風景たち



前向きの島づくり
Positive Island SADO

新任准教授・助教のご挨拶



西田 司 略歴

- 1976年 神奈川県生まれ
- 1999年 横浜国立大学卒業
建築設計 SPEED STUDIO 設立主宰
- 2002年 東京都立大学大学院助手 (-07年)
- 2004年 オンデザインパートナーズ設立代表
- 2005年 横浜国立大学 (YGSA) 助手 (-09年)
- 現在 東京理科大学理工学部准教授



高柳 誠也 略歴

- 1987年 長野県松本市生まれ
- 2011年 東京大学工学部社会基盤学科卒業
- 2013年 東京大学大学院工学系研究科
社会基盤学専攻 修了 (修士課程)
- 2013～2014年
有限会社乾久美子建築設計事務所
- 2014～2015年
岩手県大槌町役場 (復興支援専門職員)
- 2019年 東京大学大学院工学系研究科
社会基盤学専攻 修了 (博士課程)
- 2019年 東京理科大学理工学部建築学科
助教 (伊藤研究室)

僕は都市や建築の多様性について興味をもっている。ダイバーシティ (多様さの同居) という言葉が2000年代に入ってからよく使われるようになっていくが、まさに多様さが生み出す価値は何かと考えている。最近感じていることは、ダイバーシティという「状況」が価値なのではなく、意識すべきは、その多様な主体から始まる掛け合わせ (ハイブリッド) や価値交換から新しいアクションや新しい考え方が生まれることだ。建築において、あらゆるキャラクターの共生が起こるが (お年寄りと若者、日本人と外人、男性と女性、ハンディキャップのある無しなど) その共生がダイバーシティの価値なのではなく、その共生が起こるときに、都市や建築の未来の新鮮さや暮らしの豊かさを考えることこそが価値だ。その多視点を設計する側が持ち得るかどうかは、設計者自身が異なる価値観と向き合った際に、自分固有の経験や概念を外し、その価値観と共存できるかどうかにあると思う。大学は、他分野や多文化との共生の場であり、他者との対話により自身の枠を拡げる良い場である。

2019年4月に助教として着任した高柳と申します。私は城下町の長野県松本市出身で、大学では、景観デザイン分野の研究室で建築家の内藤廣先生らの指導を受けました。学部卒業のタイミングで東日本大震災が発生し、大学院では復興に関わる調査や計画策定に数多く関わりました。その後、乾事務所でも地方都市のプロジェクトに関わり、また大槌町では復興支援専門の公務員として復興計画を推進する実務を行っていました。

私の研究のテーマは、人口減少都市や集落の空間変容についてです。本格的な人口減少社会を迎えた日本における人口動態と空間変容との関係について分析はもちろんのこと、分析をもとに、より成熟した都市を実現するための制度や計画のあり方についても研究していく予定です。将来的には今後のまちづくり・各種計画策定において研究と実務を架橋したいと考えています。

理科大は、多方面で活躍する先生方 (非常勤講師も含め) に囲まれ、素直で実直な学生の皆さんが真剣に議論している姿が印象的であり、このような環境で研究・教育活動に従事できる喜びを感じております。今後ともよろしくお願いいたします。



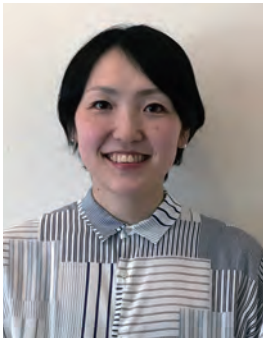
人をつなぐ、街を結ぶ、未来へ延びる。



鉄建建設株式会社

本社：〒101-8366
東京都千代田区神田三崎町二丁目5番3号
TEL 03-3221-2152 (代表)

退任助教のご挨拶



長谷川 香 略歴

1985年 東京生まれ
2008年 東京大学工学部建築学科卒業
2011年 東京大学大学院工学系研究科
建築学専攻修士課程修了、修士（工学）
2013-2015年
文化庁国立近現代建築資料館
研究補佐員
2016-2018年
東京藝術大学美術部建築科
教育研究助手
2018年 東京大学大学院工学系研究科
建築学専攻博士課程修了、博士（工学）
2019年 東京理科大学理工学部建築学科
山名研究室 助教

2019年4月に山名研究室の助教として着任いたしました長谷川香と申します。

近代建築史・都市史を専門としており、これまで文化庁国立近現代建築資料館や東京芸術大学に勤めながら、研究に取り組んでまいりました。とくに博士論文では「近代天皇制と都市・建築」の関係性の一端を捉えることを目的とし、明治から昭和戦前にかけて東京で催された国家や天皇に関わる儀礼の会場や経路について検証し、近代の儀礼が今日にいたるまでの東京の都市形成に与えた影響について明らかにしました。戦後2度目の天皇の代替わりとオリンピックを迎えるに際し、今一度、近代における都市の記憶について考える必要があると感じています。

東京理科大学に着任してからは、設計課題や山名研究室の学生指導などにあたり、充実した日々を過ごしております。研究者、教育者として成長していきたいと考えておりますので、OB・OGの皆様には御指導、御鞭撻を賜りますようお願いいたします。

この他

- ・李在永（助教）
- ・Andrew Burgess（助教）

の二人も、2018年度末で退任されました。



有井 淳生 略歴

2007年 東京大学工学部建築学科卒業
2008～2009年
OMA / Office for Metropolitan Architecture
2010年 東京大学大学院
新領域創生科学研究科修了
2010～2015年
CAI / シーラカンスアンドアソシエイツ
2015年 アリイリエアーキテクト設立
2016～2019年
東京理科大学理工学部建築学科助教

理科大では、2016～2017年度の2年間は安原研究室、2018年度は意匠設計研究室の助教を務めさせていただきました。3年間という短い期間でしたが、先生方、そして学生たちから多くの学びが得られた時間でした。特に印象に残っている2点をあげます。

1. 空間デザイン及び演習

私が師事した小嶋一浩さんが考案した1年生向けの授業です。小嶋さんとは理科大に行くことが決まってから、何回かお話をする機会がありました。その際に聞いた「将来、設計の道に進む学生でなくても建築が好きになってほしい。そのことによって、よりよい建築が世の中に生まれるはず。」という小嶋さんの思いがこもった授業を担当するのは、名誉あることでした。特に、機能性を棚上げした状態で純粋に自然光と向き合う最初の課題「光の箱」は1年生の作品ながら発見が多く、教えていた中でも最も楽しい課題の一つでした。

2. 卒業設計講評会

常勤と非常勤の先生方が、対等な立場で一等を決める卒業設計講評会は理科大理工学部の名物です。おもしろいのは、先生方の間でも評価が一致しないことです。学生の案のクリエイティブを通じてお互いの建築観をぶつけ合う、というオープンなこの場合は、建築に正解がないということを学生たちが知るよい機会であり、今後もぜひ継続して行ってほしいと思います。

大学院を卒業後、建築設計の実務に携わっていた身として、教える立場として大学に戻り、学生たちの純粋な制作意欲と向き合うことは新鮮な体験でした。どうもありがとうございました。

五感を開放する住まいへ。

Brillia
NEW LUXURY RESIDENCE



東京建物



第7回理窓会関連団体交流会報告

山崎 晃弘 (1976年卒 上原研)

3月16日(土)理窓会倶楽部にて、第7回理窓会関連団体交流会が開催され、その後の懇親会も盛況のうち滞りなく終わりました。

出席:35団体62名(理窓会関連団体対応委員会より)野田建築会からは粟飯原(野田建築会 会長)と山崎(野田建築会 顧問)が参加し、団体相互の親睦を深めました。



交流会集合写真

築理会総会懇親会報告

粟飯原 功一 (1985年卒 井口研)

工学部建築学科同窓会である築理会(現会員数8,144名)の年次総会が5月11日(土)神楽坂キャンパスで行われ、野田建築会から山崎顧問(前会長)と粟飯原(現会長)が懇親会に参加しました。懇親会は、佐野吉彦新会長の挨拶に始まり、OB・OGに加え現役・歴代の先生方も多数参加され、約70名におよぶ盛況ぶりでした。

築理会とは、合同新年会、双方の総会ほか様々な機会を通じて、益々の交流を深めていきたいとおもいます。



山崎顧問と粟飯原会長



集合写真

理工建築6期同窓会(理工学部建築学科S47年入学を中心とした卒業生)のご案内

- 【日 時】2019年12月7日(土) 受付 11:15 ~ WD 11:30 ~ 開会 12:00 ~ 閉会 14:30
- 【会 場】PORTA神楽坂6階 理窓会倶楽部(03-3269-1570): JR飯田橋駅歩3分
- 【会 費】5000円(当日徴収)
- 【申 込】野田建築会HP(「野田建築会」で検索)のタブ右端:「お問い合わせ」から必要事項を記入、「問い合わせ内容」に「理工建築6期同窓会に出席」と明記。
なお、個別のメールやハガキ案内の重複はご容赦ください。
- 【締 切】2019年11月30日
- 【幹 事】山崎晃弘(1976卒上原研) ※お知合いの方にはお声かけをお願いします。

編集後記

今回の表紙写真は、完成間近の頃に撮影した新7号館で、私が手持ちのiPhoneXで撮影したものです。他の校舎もどんどん建て替えが進んでいますし、野田キャンパスに到着して最初に目に入る建物ですし、そろそろ見た目もきれいになっていいんじゃないかな、2号館。

(とりやまあきこ 2003年修了 初見研)

今回はまったくお手伝いできませんでした。とりやまさんに感謝です。10月になれば仕事も落ち着く予定です・・・(^);

(大野芳俊 1988年卒 奥田研)

※毎年秋号に掲載していた「就職先グラフ」は、今年度は次号にて掲載予定です。

会費納入のお願い

NAAでは会則により、2019年度(2019年4月1日~2020年3月31日)の普通会員年会費として3,000円を徴収しています。これらは会報の発行、OBと語る会の開催、見学会等の研修、NAA賞の授与、NAAサイトの維持その他NAAの活動に有効に活用されています。こうしたNAAの運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。(お手数ですが、納入者確認のため、振込用紙には卒業年を必ずご記入ください)

※会費納入がない場合は、今号を最終発送とする場合があります。(注)年度会費の二重払いを避けるため、ご不明の場合は右記HPでお問合せください。

野田建築会会報 VOL.42 2019 AUTUMN

2019年10月1日

編集:会報部会(とりやまあきこ/大野芳俊)

発行:東京理科大学野田建築会

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

お問合せおよびメルマガ登録はこちらから——

<http://www.rikadaikenchiku.com>



Facebook ページ

<https://www.facebook.com/nodakenchiku>

